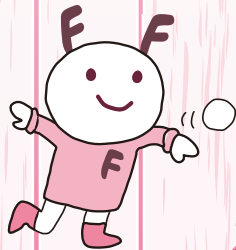


Frente

vol.76
2019.2



不定期連載インタビュー

「みえのひとびと」第10回

●「夢の手作り市」

長岡正樹さん・長岡江利子さん 夫妻
NPO法人こどものみらいプロジェクトゆめドリ三重事務局
夢を手づくりする企業組合

連載 最終回!

●エッセイ

「あなたにとって大切なものは何ですか?」

柴田 佐織さん

キャリアコンサルタント、
株式会社ワーク・ライフバランス認定
上級ワーク・ライフバランスコンサルタント

●フレンテスタッフリレーコラム

「ワタシと男女共同参画」《最終回》

事業ご案内

●開館 25 周年記念事業

近藤サト講演会

「あなたはどうか老いるか
～自然体で生きること～」 ほか

イベント Report !

●働く男性のためのストレスマネジメント

マインドフルネス体験講座

●i SELECT SHOP by I LADY.

●劇的フレンテ Scene1

～スクリーンで出会った個性あふれる主役たち～

「新時代へ。遺制いせいから飛び立とう!

平成最後の発行によせて……
情報誌 Frente とふりかえる “時代”



情報誌 Frente と振りかえる“時代”

平成6年、三重県女性センターとして開館してから今年で25周年。多くの県民の皆さまに支えられ、センターも節目の年を迎えました。開館から絶えず発行し続けてきたセンター情報誌は平成11年度から「情報誌Frente」として再スタート。ひとつの時代が終わろうとする今、情報誌Frente、75号分の表紙と共にそのあゆみを振り返ってみたいと思います。皆さんの「平成」は、いったいどんな時代でしたか？

「男女共同参画社会基本法」が施行された平成11年、『情報誌 Frente』は三重県の情報誌「ういみんみえ」との合併号として再創刊されました。特集は「働く女性の『未来』」。現在でも大切な課題が採り上げられています。

平成12年に「三重県男女共同参画推進条例」が公布。同年11月には「日本女性会議2000津」が開催され、全国から延べ4,000人もの方が参加しました。この年度の情報誌は「子育てを考える」を3回シリーズで特集。

法律や条例の施行等を受けた平成13年4月、「男女共同参画センター」へ改称。愛称も公募により「フレんてみえ」となりました。「フレんて」はスペイン語で「前向き」という意味。情報誌では「男女共同参画を考える」という直球テーマの特集を組んでいます。

H11年6月：男女共同参画社会基本法

H12年7月：三宅島で噴火

H14年5月：サッカーW杯日韓大会



平成15年度 vol.13から情報誌がリニューアル。発行が年度内3回から4回となり、タイムリーな話題も発信できるようになりました。



H15年3月：イラク戦争

H13年9月：アメリカ同時多発テロ



平成14年度に県「男女共同参画基本計画」第1次実施計画」が策定され、いよいよ施策が本格的に歩み始めました。特集は「家族」。そのあり方などについて様々な視点からお伝えしています。

H16年8月：アテネ五輪で野口みずき、吉田沙保里金メダル



H17年4月：JR福知山線脱線事故

平成16年度末の vol.20 では、翌月から施行される「改正育児介護休業法」にあわせ「子育て大特集」が巻頭に。このころからはフレんてが企画する講座などの事業報告や告知などの連携記事も多くなり、vol.21 からは巻頭エッセイもスタートしました。

H18年3月：日本がWBCで初代王者に
(ワールドベースボールクラシック)

それまで69あった県内市町村が合併で29市町となった平成18年。vol.25 からは年間テーマやキャッチコピー、記事・事業紹介の文字や写真が多くなります。この年度のフレんては「男女共同参画の視点で進めるまちづくり」をテーマに掲げています。

H19年10月：郵政民営化

平成19年度は、県の「男女共同参画基本計画(改訂版)」や「第三次実施計画」が策定。またこの年、「三重県内男女共同参画連携映画祭」がスタート。最初は四日市市・鈴鹿市の各男女共同参画センターとフレんてみえとの3館連携でしたが、その後自治体との協働が進み、最大で27の県内市町村が連携する大事業にまで成長しました。全国的にも珍しいこの男女共同参画をテーマにした大型映画祭は、今年も開催予定です。

平成20年度は、前年の「仕事と生活の調和(ワーク・ライフ・バランス=以下 WLB) 憲章」とその「行動指針」の策定を受け、WLB元年とされました。男性の視点や企業との取組などにスポットを当てた記事も掲載されています。

各ページ下にある「フレんてメモ」が始まったのは平成19年度vol.29から。タイムリーなニュースや近くの記事に関連した用語解説など、担当者も勉強しながら記事を作成しています。

H20年9月：リーマンショック



全8ページでお届けしている情報誌Frente。毎号その構成は担当職員が中心となり、全職員が分担して記事を完成させています。作成期間は1号につきおよそ2か月。

執筆などが遅れてデザイナーさんたちを困らせてしまうこともあります、なんとか、一度も休刊することなく発行を続けてこられました。

このままいけば、2025年の秋に第100号の発行を迎えることになります。さて、そのころはどんな誌面になっていることでしょう。

平成21年は施設の開館から15周年＆「男女共同参画社会基本法」制定から10周年という節目の年。県民のみならずと協働で取り組んできた「三重の女性史」が発刊され、秋のフォーラムに元文部大臣の赤松良子さんをお招きするなど、記念事業もたくさん開催されました。情報誌は、各事業との連携記事がより充実。連携機関の紹介やエッセイ、コラムなど、多彩な内容になっています。

県「男女共同参画推進条例」制定から10年となる平成22年度は、情報誌でもその10年とこれからを考える特集が毎号掲載されました。他にも、津市出身の作家中村安希さんのエッセイや映画監督関口祐加さんのインタビューなど、さらに充実した内容になっています。

東日本大震災が起こった平成23年。ここから男女共同参画の視点で防災・減災の取組が加速していきました。またこの年、フレンテでは複合文化施設の特徴を活かし、二兎社による演劇公演「シングルマザーズ」を初主催。次の三重公演もお楽しみに！



H21年9月：民主党鳩山内閣発足

H23年3月：東日本大震災



H22年6月：小惑星探査機「はやぶさ」帰還

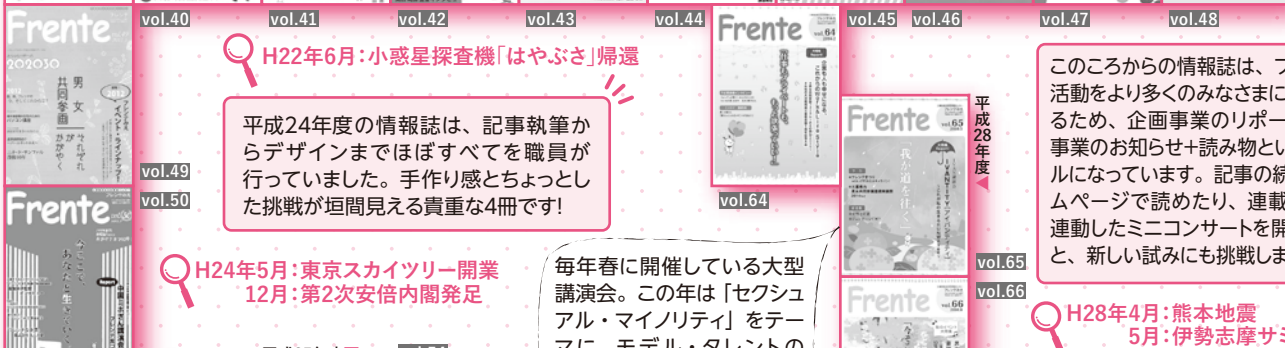
平成24年度の情報誌は、記事執筆からデザインまでほぼすべてを職員が行っていました。手作り感とちょっとした挑戦が垣間見える貴重な4冊です！

このころからの情報誌は、フレンテの活動をより多くの方々に紹介するため、企画事業のリポートや主催事業のお知らせ+読み物というスタイルになっています。記事の続きをホームページで読めたり、連載コラムと連動したミニコンサートを開催したりと、新しい試みにも挑戦しました。

H24年5月：東京スカイツリー開業
12月：第2次安倍内閣発足

毎年春に開催している大型講演会。この年は「セクシュアル・マイノリティ」をテーマに、モデル・タレントのIVANさんをお招きしました。全国的にも先進的な取組で県内外から多くの方にご来場いただき、性の多様性を考える大きなきっかけとなりました。Vol.65の特集では、そのお話の詳細をお届けしています。

H28年4月：熊本地震
5月：伊勢志摩サミット

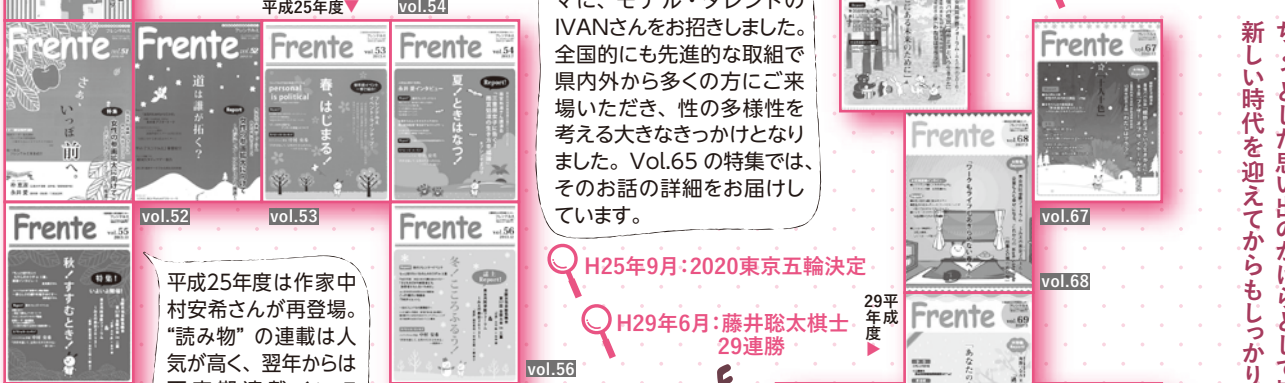


平成25年度

平成25年度は作家中村安希さんが再登場。“読み物”の連載は人気が高く、翌年からは不定期連載インタビュー「みえのひとびと」も開始。今号でなんと第10回となりました！

H25年9月：2020東京五輪決定

H29年6月：藤井聡太棋士29連勝



H26年4月：消費税8%

H30年6月：働き方改革関連法成立
9月：北海道地震
ブラックアウト

実は多くの支持を得ているのが、巻末上部のコーナー。男女共同参画の重要項目をお届けしています。今年度は職員リレーコラム。今号が最終回です！

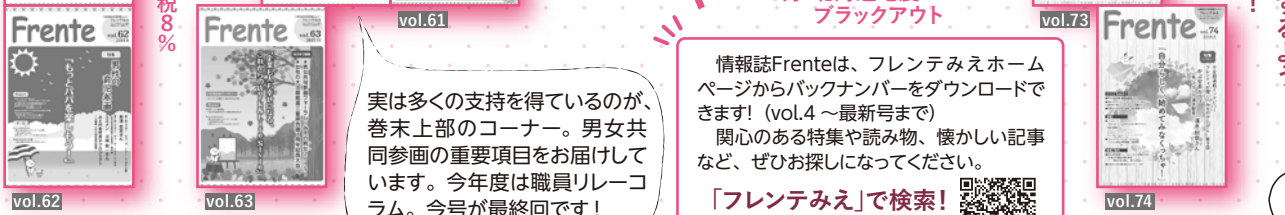
情報誌Frenteは、フレンテみえホームページからバックナンバーをダウンロードできます！（vol.4～最新号まで）
関心のある特集や読み物、懐かしい記事など、ぜひお探しになってください。

「フレンテみえ」で検索！
またはこちらまで➡



平成という時代とともに歩んできたフレンテみえの情報誌。そのページのなかの一言がだれかの背中を押ししたり、知見となったり、ちょっとした思い出のかけらとして皆さまの傍らにあり続けられたりするように、新しい時代を迎えてからもしっかりとお届けしてまいりたいと思います！

H27年8月：女性活躍推進法成立



情報コーナーミニセミナー

働く男性のためのストレスマネジメント
マインドフルネス体験講座

仕事に追われてイライラしたり、心配事にヤキモキしたり…何かとストレスを感じやすい現代社会。そんな中、近年企業の研修に取り入れられるなど、ストレスマネジメントとしても注目を浴びている『マインドフルネス』。今回は『働く男性のためのストレスマネジメント』と題し、これまでマインドフルネスに触れたことのない男性を対象に体験講座を行いました。

マインドフルネスとは「今、ここにいる自分」をありのままに見つめること。講座では、マインドフルネス・プラクティス実践者 山舗恭子さんの案内のもと、「食べる」「歩く」中でのマインドフルネス体験や、感じたことを全員で共有しあうシェアリングを行いました。

講座終了後、参加者の皆さんからは「自分の心と対話する良い経験になった。」「普段からマインドフルネスを心がけていきたい。」などの声が聞かれました。

特に男性は「男はこうあらねばならない」と内面から来るストレスを抱えがちと言われています。自分の内面と向き合う時間を持つことも、そういったストレス源から解放する一つの方法なのではないでしょうか。



開催日 12月1日(土)

女性のためのエンパワーメント・スクール
i SELECT SHOP by I LADY.

私たちは毎日、当たり前のように食事や服を自分で選んでいます。同じように「性」にまつわることを自分自身で選択できていますか?この講座では、自分らしく生きるために「性」について考え、自ら選択する難しさや楽しさを学びました。

前半は、望まない妊娠を防ぐ対処法や恋人と良い関係であるためにはどうするかなどの質問に対し、回答を選択していくワークショップを実施。なぜその回答を選んだのかをグループで共有しました。

後半は、「リプロダクティブ・ヘルス/ライツ (性と生殖に関する健康・権利)」のお話と女性の性に關する健康・権利が世界で、日本でどう扱われているのかなどを学びました。

参加者からは「こんな性の話は初めて聞いた」「知ることができてよかった」との声が聞かれました。



開催日 11月24日(土)

情報コーナーミニセミナー

ドラマティック
劇的フレンテ ～スクリーンで出会った
個性あふれる主役たち～

映画やドラマなど様々なエンターテインメント作品を通して、その物語や時代、関わる人々についてみんなで楽しく語り合う初企画のミニセミナー「劇的(ドラマティック)フレンテ」。第1回は「雨に唄えば」「犬神家の一族」「天空の城ラピュタ」など選ばれた6つの映画作品の“主役たち”にスポットを当て、12人の参加者皆さんとともに時間いっぱいまで楽しく語り合いました。

講師の田中忍さん(三重映画フェスティバル実行委員会会長)からは、主役や登場人物の描かれ方、物語や俳優についてなど、様々な情報を分かりやすくお話していただきました。また、女性の描かれ方や自立へのステップなど普段あまり気付きにくい視点からの解説など男女共同参画センターならではのお話や、作品と三重県との意外な関係など、

ここでしか聞けない情報も盛りだくさん。作品の上映はありませんでしたが、映画鑑賞がお好きな方もあまり映画をご覧にならない方も皆さんお話がはずみ、温かい雰囲気の中終了しました。

そんな初企画の「劇的フレンテ」、ご好評につき第2回目の開催が決定しました!日程は今年の秋、9/29(日)10時から。少し期間が開いてしましますが、どのようなお話になるのかワクワクドキドキでお待ちください!



開催日 12月2日(日)



みえのひとびと 第10回

皆さんは、『夢の手づくり市』をご存知ですか? およそ月に一度、三重県総合文化センターで開催されている催しで、今では1日に3,000人ほどの来場者がある名物イベントです。

この『夢の手づくり市』を運営されているのが、長岡正樹さん、江利子さん夫妻。お2人は『夢の手づくり市』だけではなく、県内の小中学校を中心に、「ドリームマップ」の1日授業を行うなど、精力的に活動されています。今回は、地域を元気にしたい!というお2人の想いについて、お話を伺いました。



長岡正樹さん、江利子さん 夫妻
NPO法人こどものみらいプロジェクトゆめドリ三重事務局
夢を手づくりする企業組合

『夢の手づくり市』は毎回たくさんの来場者で賑わっていますね。このイベントをやってみようと思ったきっかけは何ですか?

正樹さん●2011年の4月ごろ、京都で行われた手づくり市を見に行っただけで、そこで見た光景がすごく印象的だったんです。出店されている人がみんな夢を追いかけている感じで、とてもいい顔をされていました。今まで「仕事は苦勞してやらなければならない」という思い込みがあったんですが、自分が楽しいと思っていることを活かして物を手づくりし、販売をされている。こんな世界があったのかと。この感動を三重の人にも感じてもらいたいと思って始めたのがきっかけです。

出店者はどんな方が多いのでしょうか?

正樹さん●本当に老若男女、多種多様です。特に最近では女性の出店者さんが増えてきているな、という実感があり、私達も「ママエリア」という子育て中の女性出店者さんを集めたエリアを作るようになりました。

江利子さん●この「ママエリア」が出店者さんからも来場者さんからもとても好評で、評判を呼んでいるんです。子育て中の方は、「子どものことを優先して、自分のやりたいことを我慢しなければいけない」と自分が本当にやりたいことを我慢したり、なかなか社会とのつながりを作る機会が無かったりする方も多いです。そんな方々にとって、手づくり市に出店することが社会とのつながりを取り戻すきっかけになったり、自分の手づくりした商品が売れることで自信をつけることに繋がっているのかもしれない。

正樹さん●自分の作った品をいきなりビジネスにつなげるのは難しくても、手づくり市なら無理なく始められる。そういうきっかけ作りになっているのではないかと思います。来場者の方も「ママさんがどんな物を作っているのかな?」と興味を持って見ていただいているようです。

手づくり市は、来場者だけでなく出店者側の方にとってもいい影響があるんですね。そして、この活動の他にドリームマップを作る授業を行う活動もされていますね。「ド

リームマップ』とはどんなことなんですか。

江利子さん●好きな写真や自分の元気が出る言葉を、一枚の大きな紙に書いたり貼ったりして作ったものがドリームマップです。自分の理想を実現するための習慣を応援してくれるツールといったところですね。そのドリームマップを作る授業を県内の学校などで行っています。

学校で授業をやっているのが、先生もほとんどしゃべったことの無い生徒さんが、授業を進めていくうちに「本当は…」という言葉が発するようになって、最終的にみんなの前で発表するようになったことがあり、先生がすごく驚いていました。普段はいつも黙っている子ども、本当は心の中に言いたいことがあるけど、それを心の中にしまい込んでしまっていて、うまく表現できない。そんな子が、自分と向き合い、自分自身を認めてあげる時間を作ることで少しずつ心が開いていくのを感じます。

正樹さん●自分の何が好きなのか、そういった視点で自分と向き合い、自分を認め、表現する。ある意味手づくり市にも共通することがあるのではないかなと感じています。

夫婦でこういった活動をしていこうと思われたきっかけはありましたか?

正樹さん●2人の目指している方向が同じだったので、「これがきっかけ」というのは無いですね。私は手づくり市を、妻はドリームマップを広める活動をそれぞれやっていたんですが、先ほども申しましたとおり、手づくり市もドリームマップも、根本の想いは同じです。ですからおのずと同じ方向を向いて一緒に活動していたという感じですね。

「妻のためにこれをやってあげよう」という気負いも無いんですが、お互いの理想にはすごく共感できているので、お互いがお互いを応援し続けたい、という気持ちです。

お互いの意見が違ったりすることは無いんですか?

正樹さん●私はあまりやり方を変えたくない方なんですけど…

江利子さん●私はいろいろ違ったやり方を試したり、新しいことをやってみたいと考える方なんです(笑)

正樹さん●最初はそこに戸惑うことも多かったんですが、最近は妻の言葉のおかげか、発想が柔軟になってきているのを感じます。それでもまだまだ頭が固いですが(笑)

手づくり市でも、ドリームマップでも、いいものを作るためには多様な視点が必要なので、お互いの考え方に違いがあって良かったな、と思うことの方が多いですね。その違いがありがたいなと感じます。

これから2人で挑戦していきたいことはありますか?

正樹さん●手づくり市も、ドリームマップも、「自分を表現する」ということでは同じです。子どもたち、子育てをされている方、企業の方…いろんな立場の方がいますが、一人でも多くの方の自己表現・自己実現のお手伝いをしていきたいと思っています。

江利子さん●まずは今やっている活動にさらに磨きをかけ、深く追求していきたいなと思っています。「夢の手づくり市」はこの調子で回数を重ねていけば、あと2年半くらいで100回目を迎えることになります。そこを目標に、1回1回初心を忘れずにやっていきたいですね。



『夢の手づくり市』の様子

夫婦で理想を実現させるために活動されているお2人。お互いの違いを認め合いながら、それぞれの理想に共通するところを見出し、協力し合われている姿に、2人以上の大きなエネルギーとパワーを感じるインタビューでした。これからもお2人の活動に注目していきたいです!

事業予告



三重県総合文化センター
開館25周年記念事業

日時 2019年4月21日(日) 13:30~15:00

会場/三重県文化会館 中ホール
定員/500名 入場/無料

4/21

フレンテみえファンファーレ事業

近藤サト講演会

「あなたはどうか老いるか ～自然体で生きるということ～」

あなたにとって「老い」とはなんですか？

「老い」による変化をマイナスにとらえてしまう人は少なくありません。特に女性は「若い方がよい」と思われがちで、年齢とともに変わりゆく身体や心の変化に対して、否定的に感じている人も多いかもしれません。「アンチエイジング」という言葉を多く耳にすることからも、「老い」とはよくないことで抗うべき、という考えが、まだまだこの社会には根強く残っているのではないのでしょうか。

しかし、「老い」は誰にでも訪れ、避けることはできません。「老い」に抗い「若さ」を大切にする生き方だけでなく、「老い」を受け入れ、今の自分のありのままの姿を大切にするこも、ひとつの生き方なのかもしれません。

今回、ファンファーレ講演会にご登壇いただくフリーアナウンサーの近藤サトさんは、白髪を隠さず若さにしがみつかない、自然体で生きる人生を歩まれています。

「人に見られる」事も意識しなければならない仕事に携わる近藤さんが、なぜそのような考えに至ったのか。そのきっかけは。周囲の反応や仕事への影響は。そして、近藤さんにとって「老い」とはいったい何なのか。

年齢が気になり知らず知らずのうちに窮屈な想いをしていたり、自分の望む生き方ができずに悩んだりしてしまっている方。これから年を重ねることに不安を感じている方。男女問わず、その時のあるがままの自分を受け入れ、いつまでも楽しく豊かに、自分らしく生きるためにはどうしたらよいか。

近藤さんの歩む生き方から、ぜひその「ヒント」を受けとめてください。

皆さまのご来場をお待ちしております！



近藤サト

【フリーアナウンサー・ナレーター 日本大学芸術学部特任教授】

1968年、岐阜県出身。日本大学芸術学部放送学科卒業後の1991年、フジテレビにアナウンサーとして入社。

『FNN NEWS.COM』や『FNNスーパータイム』週末版などの報道番組のほか、多くの情報番組ナレーションやバラエティ番組のアシスタントを務める。1998年、フジテレビを退職しフリーに。ドキュメントからバラエティまで、華やかで品のある声にちよびりの毒を乗せる語り口で人気の実力派アナウンサー・ナレーター。2011年より日本大学芸術学部放送学科特任教授としてアナウンス実習、卒業研究などを担当。東日本大震災後の体験から感じた白髪染めへの違和感から、白髪を隠さず年齢にあらがわない生き方で注目を集め、女性をはじめ多くの人々から支持を得ている。主な出演作品：NTV「有吉反省会」、TBS「白熱ライブビビット」、CX「梅沢富美男のズバッと聞きます」ほか多数。

5/15~

女性のための

「自分を好きになるトレーニング」

「自分を好きになれない」あなたへ。

何かにつけて自分がダメだと思い自己嫌悪に陥っていませんか？

家庭や職場や周囲の人間関係の中で、「言いたいことが言えない」と思い悩んだり、自分自身にダメ出ししてしまったり、他者からの目線が気になって自分を見失っていませんか？

今の「好きになれない」自分を受けとめ、「なりたい自分」に近づくために学び、考え、実践する講座です。



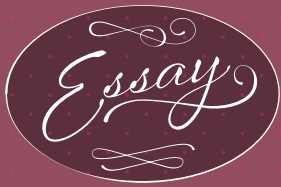
日時 2019年5月15日、29日・6月12日、26日・7月10日 (全5回)
10:00~12:00 いずれも(水曜日)

会場/三重県男女共同参画センター 「フレンテみえ」セミナー室 ほか
講師/増井 さとみさん

(ウイメンズカウンセリング名古屋YWCA フェミニストカウンセラー)

定員/24名

その他/昨年までの「自己尊重トレーニング」と同等の内容ですが、以前受講された方も申込可能です。ただし、申込多数の場合は初めての方を優先し、さらに多数となった場合は抽選にて受講者を決定させていただきます。



「あなたにとって大切なものは何ですか？」

～第4回 不確実な時代こそ“自分らしく”～

柴田 佐織

「自分らしい働き方・生き方」をテーマに4回にわたってお送りしましたスペシャルエッセイは、いよいよ今回が最終回。柴田さんから皆さんへ、未来へ向けてのメッセージです。

最終回は「自分らしさ」とは。予測不可能なAI時代のこれからの生き方、働き方について、私の経験談を最後にお話したいと思います。

昨年、某市役所からのご依頼で女性活躍研修をさせて頂き、新しい時代のリーダー像をみんなで考え、AIにできない領域の仕事を創造しましょう!というお話をさせて頂きました。

現代は変化が激しく、正解のない予測不可能な「VUCA(※)時代」というそうです。

この研修の際に受講者の方々が新しいリーダー像を“自分たちで考える”ということにとっても共感していただきました。また「仕事があることが当たり前と思っているけど、当たり前じゃないよね」と発言された方がいらっしやり、私自身も2年前に病気になりこの先働けるのだろうか?と不安な毎日を送っていたのですが、今もこうして働き続けていられるのも、理解ある社長のおかげですし、この研修を私にご依頼して下さったことも改めて感謝しなければと思った瞬間でした。

思えば、人生色々ありました。子どもの頃イジメにあって大変辛い経験もしましたし、部下の気持ちが読み取れず退職された経験もあります。現在も進行形で失敗の数々です…。

変化の激しい今の時代、以前のような大企業に入れば定年まで安泰という時代は本当に終わっていくのだと30年間のサラリーマン人生を通して感じています。

普通の高校を出ただけで、子どもの頃はなんのとりえもなかった私が、今では全国を回って講演をしたり、原稿を書いたり、昨年は政府の委員までさせて頂き、ある意味普通の人とは少し違った毎日を送っているわけですから。人と何が違ったかといえば子どもの頃から人一倍好奇心旺盛でした。一方でかなり飽きっぽい性格で仕事はあまり続かず、転職も8回行いました。今の仕事を覚えると途端につまらなくなり、新しい仕事がしたくて、それが出来ないと現状に満足できず部署異動をお願いする、そんな若者でした。おかげで様々な職種にも携わることが出来ました。とにかく新しいことをしてみたい!40代になった今もワクワクだけを求めて生きているような気がします。

20代の時、当時の社長から「出過ぎた杭は打たれない」と言われ、出過ぎたために打たれたことも多々あります(笑)。当時は女性で出過ぎる人なんてほぼいなくて、世間知らずだったので。でも周りがなんと言おうと、とにかくやってみる!仕事は楽しく!というのが私の信条です。やってみてうまく行けば

それが自分のオリジナルストーリーになり、次の転職先に売り込める、そうやって転職人生を歩んできました。

先日、幻冬舎の箕輪厚介さんのお話を聴く機会がありました。講演の最後に「環境を変える場所を作る」というお話がありました。私も20代から同じ会社の中でも次々と環境を変えてきたことで、出来ることを少しずつ増やししながら、スキルアップし成長できたからこそ、今の自分があるのではないかと思います。正解がない時代ですから、自分で考え、自分が出来ることを最大限楽しんでやってみる。その結果出た答えなら、それが正解!私の場合、周りの評価が良くても自分自身が満足できなかったことは、何かが違う。そうやって違和感の正体を探りながらよりよくするためにはどうすれば良いのか?と考えて日々仕事をしています。頂いた仕事は大変そうでも挑戦してみる!やったことのないことって面倒だし、どれだけ時間がかかるかも未知数で、予定も立てづらい。でもその過程を楽しむことこそが一番大事だと思います。これからも“ワクワク”した人生を歩みながら、みなさんのお役に立てるようなお仕事ができればと思っています。

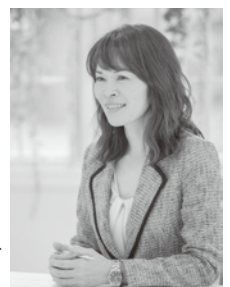
最後までお付き合い頂き、本当にありがとうございました!

みなさんも子どもの頃のようなワクワクを忘れずに、健康で充実した人生をお過ごしください!

※VUCA … Volatility(変動性)、Uncertainty(不確実性)、Complexity(複雑性)、Ambiguity(曖昧性)の頭文字をとったもの。今の社会経済環境が予測困難な状況に直面しているという時代認識を表す造語。

柴田 佐織(しばたさおり)

キャリアコンサルタント(国家資格)
米国 CCE, Inc. 認定
GCDF-Japan キャリアカウンセラー
株式会社ワーク・ライフバランス
認定上級ワーク・ライフバランスコンサルタント
アングーマネジメントファシリテーター



企業での採用・人事・労務・経理・営業・業務改革など様々な部署を経験。30代で自身のハードワークと病気の経験からワークライフバランスの必要性を感じ始める。現在は、株式会社エムワン人事部課長。2015年度三重県「ワークライフバランス推進サポート事業」に応募し、自社の働き方改革に着手。約1年間取組んだ結果、取組店舗の有給消化率前年比352%UP、次年度はこの取組を採用活動に活かし、ナビサイトエントリー数5倍、新卒採用数前年比2.75倍、出生率前年比2.5倍という結果に繋がった。その後株式会社エムワンの子会社として働き方改革コンサルティング会社「株式会社CREA」を設立。現在、県内外でワークライフバランスや働き方改革、イクボスを推進するためのセミナーを開催。

フレンテスタッフ
リレーコラム

最終回

「ワタシと男女共同参画」《4回シリーズ》

男女共同参画（ジェンダー平等）の推進に邁進してきた40年

1979年、私は生活改良普及員（現普及指導員）として三重県職員となりました。

1949年に始まった農業改良普及事業は、「考える農民（農業者）の育成」を提唱して進められてきました。生活改良普及員は「農家の生活改善」という実践的なニーズと、「女性の地位向上」という戦略的なニーズに応え、「課題は現場にある」と、直接農家に向いて女性たちの声を聴き、その想いに寄り添いながら課題をつかみ、女性たちとともに解決策を考え、実行できるように助言、援助する仕事です。

「考える農民」とは、「自ら考え、自ら判断し、自ら行動し、自ら行動結果に対し責任を負う農民」とされています。今の女性のエンパワーメントと共通する目標が、70年前に提唱され、働き手でしかなかった女性たちを、農業経営者としてその力を発揮できるようにと取り組んできました。

例えば、女性に簿記を指導し、そこから経営への発言権を持てるようにすると。パソコンを使った簿記帳や「家族経営協定」を進めて給料制の導入、ホームページ作成、マーケティングのスキルなど、従来の農業者が取り組んでこなかったことをいち早く女性たちが取り組む機会を提供し、エンパワーメントにつなげてきました。そのような取組を重ねた結果、これまで当然のように男性が担ってきた農家のリーダー的役割である指導農業士・青年農業士に初めて女性の参入を果たすなど、男性中心の農業分野に一石を投じてきたと自負しています。

フレンテみえでは職員力に支えられた5年間でした。職員は

着実にエンパワーメントし、「フレンテトーク」では職員一人ひとりが講師となり、地域へ出向いて、自ら男女共同参画推進の事業に参加する機会の少ない層への啓蒙に成果を上げています。そして、出向いた先で生の声を聴き、また、職員自身のライフステージによって抱える課題も重ねて「課題は現場にある」というスタンスで事業企画に反映することができています。

また、女性たちと関わる中でも、これまで培ってきた普及事業の手法は効果を発揮しています。女性たちがつながり「考える女性」が育っていく。点の存在をつなげる役割を担うことで線になり、面に広がりエンパワーメントしていく。「働く女性のネットワーク三重」の取組もそのひとつです。女性たちの就業継続を目標に関わってきたメンバーが輪を広げ、活動を続けていくことを期待しています。

「経済力は発言力と正比例する」これはいつも私が女性たちに言っている言葉です。

私は、それを実践するためには「男性の家庭運営力（家事・育児・介護を主体的に担うこと）をどう付けていくか」だと考えています。

私自身、2人の息子をジェンダーニュートラルに育て、彼らは見事に家事力を身につけました。家事を女性の仕事だとは考えない男性に育てられ、「主夫」もできています。家庭の中から「ジェンダー平等」を実践することが、社会を変える基礎となる。そのカギを握るのは女性たちであると考えています。

公私ともに「男女共同参画」を進めてきた40年間で、まだまだ続く…!



フレンテみえの職員がそれぞれの仕事を通して感じる「男女共同参画」への想いや考えを綴ってきたリレーコラム。最終回は、今年3月末でいよいよ任期終了となるフレンテみえ所長からのメッセージをお届けしました。

フレンテみえって、なに？

三重県の男女共同参画社会を推進する拠点施設として津市の三重県総合文化センター内に平成6年オープン。情報発信・研修学習・相談・調査研究・参画交流という「5本の柱」で、様々な事業を展開しています。ぜひ皆さま、お気軽にお立ち寄りください！

～詳しい情報はホームページまで～

フレンテみえ

検索

生き方・家族・人間関係・離婚・職場 などなど…
男女がともに自分らしく生きるために、様々な悩みの相談をお受けします

女性のための電話相談 秘密厳守・相談無料

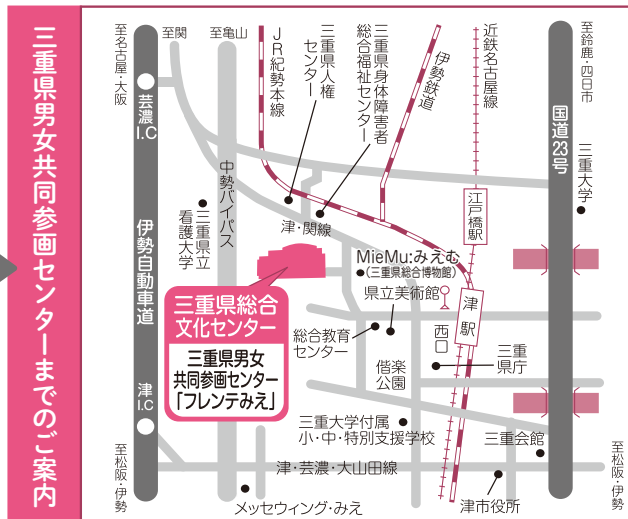
フレンテみえ 専用ダイヤル 059-233-1133 相談室

相談時間	曜日	月	火	水	木	金	土	日
朝 9:00～12:00	休館日	●	●	●	●	●	●	●
昼 13:00～15:30	※	●	—	—	●	●	●	●
夜 17:00～19:00	※	—	—	●	—	—	—	—

※祝日の場合「朝・昼」相談あり(翌平日が休館日)

※このほか女性のための面接相談・法律相談・男性のための電話相談・LGBT電話相談を実施しています。詳しくはお問合わせください。

フレンテみえ相談室のご案内 (切り取ってご利用ください)



- 休館日 毎週月曜日 年末年始(12月29日から1月3日)
- 交通 ■バス/津駅西口1番のりばから約5分 ■徒歩/津駅西口から約25分 ■自家用車/伊勢自動車道芸濃インターから約15分、津インターから約10分 ※駐車場は1,400台(無料)。できるだけ公共の交通機関をご利用ください。

(年4回発行/次回5月発行予定)

発行 三重県総合文化センター
三重県男女共同参画センター フレンテみえ
〒514-0061 三重県津市一身田上津部田1234番地
TEL 059-233-1130 FAX 059-233-1135
URL https://www.center-mie.or.jp/frente/
E-mail: frente@center-mie.or.jp

再生紙を使用しています。